

Soba

Choko

Art

# Soba Choko Art

## 第3回 そば猪口アート公募展

### 総評

昨年を30点上回る総計278点の応募が有り、審査員一同講堂に並べられた作品群に圧倒されることになった。5人の審査員がゆっくりと一点ずつ丹念に熟覧することから始まり、作品と対話をしながら一審を進めていく。二審、三審と進めるうちに、昨年並みの入選80点では余りにも惜しい作品が多く有り、入選を急遽100点とすることとした。それでも今回展示できない作品には優秀な物が多く、誠に残念であったことを付記しておく。

受賞候補は最後迄20点以上が残り、いずれも個性が有り、技術力、表現力も豊かであることにこの展覧会の大きな意義を感じる事となった。今回は山形県白鷹町へも巡回展示され、特別賞が付与されることで、入選作100点の内10点を受賞とすることとした。

最終的には20代、30代の作家が過半数となり、台湾の作家が受賞する等昨年に続き国際展としての形が整って来た。そば処の安曇野に建つ安曇野高橋節郎記念美術館に人々の感性が一堂に集まること、そしてここから世界へ向けて芸術運動が発信展開できることは望外の喜びである。(三田村有純)

### 大賞 <十六面黒猪口>

高い技術力と木そのものの色彩が持つ圧倒的な造形美に審査員一同から特に高い支持を得た作品である。16面のシルエットが光を浴びてわずかに宿す黒色の影は特に美しい。

その美の根源は共に貴重な硬木である黒檀材と黒柿材の中から杳目を選びバランス良く16面に配して、その上に何度も生漆が拭き塗され、丁寧に仕上げられた造形作品であるからであろう。板材をはぎ合わせて16面の器を創ることは今後への可能性を感じさせる。(高橋貞夫)



十六面黒猪口 (左)黒檀、(右)黒柿/板ハギ、拭き漆

板材のハギ合せによる多面体構成と漆の性能とのコラボレーション。

桜井 謙治

静岡県 1961年生まれ



準大賞

直径8.5 × 6.7 cm

うつろひ・懐 おもひ (磁/排泥鑄込、モカウェア)

(右)《懐》モカウェアを用い、静かで穏やかな風景をイメージしました。  
(左)《うつろひ》モカウェアを応用し、幻想的な風景をイメージして制作。

片瀬 有美子  
石川県 1988年生まれ

準大賞 <懐>・<うつろひ>  
鑄込みで作られた白磁のカップ形にモカウェアの技法で模様を表わしている。モカウェアとはタバコの葉を煮出した液(モカティー)に顔料を混ぜて絵具として模様を描くもの。白化粧を施し、間髪を入れず(たっぷり水分を含んでいるうちに)筆でモカティー顔料を染ませていく。いわば墨流しのように絵具が染みていく。要はその技法を用いていかに描くかなのだが、この作品は「幻想的な風景」(懐)と、「穏やかな風景」(うつろひ)を描こうとしたものである。なにか有機体か植物の群生が目前で突然登え立ったような(幻想的な風景)、或は花園に包まれたような(穏やかな風景)、そんないわば心の中の心象風景が、モカウェアの技法のプロセスそのままに描かれていることに魅かれる。アウトラインのシンプルで美しい形、素地の白と絵具の色感の良さ、そして模様の現代性など、すぐれた作品である。(金子賢治)

優秀賞 <月光>  
吹きガラスとは違い、板状にしたガラスを電気炉の中で溶着させ、湾曲させるフュージング・サギングという技法で作られている。そば猪口としての機能よりも器としてのオリジナリティーに感心した。事前に制作された突起物の中にも箔や色が内包され、底には銀箔が施されている。口元の緩やかな曲線とわずかな暈かしは、作者のガラスへの愛着を感じずにはられない。(藤田潤)

優秀賞 <晃>  
絞り込まれたシルエットを持つ形は丹念に塗られた漆により、しっとりとした質感を感じさせる。細部迄、行き届いた磨きの仕上げは、圧倒的な存在感を放つ。内側には砂子状の金が蒔かれ、外側の一部分に施した変わり塗の朱色と金の表情は太陽が織りなす永遠の光と影の輝きを感じさせる優作である。(三田村有純)

特別賞 <虹彩霧滴「黎明」・「aurora」>  
鉄袖の窯変を巧みに用いて美しい表面感情を作り出した。いわゆる天目茶碗の高台がすっきりと見える形を基本に、側面のアウトラインの立ち上がりをほぼ垂直、やや斜交する角度に決めたことが優れて現代性をもたらすことになり、鉄袖窯変の色感の現代性と共鳴している。(金子賢治)

審査員賞 <黒耀彩波文そば猪口>  
外側を黒、見込みを金彩風の窯変でまとめた渋味の落ち着いた表現である。外側には同じ黒彩で塗と布目で質感を変えて波文を描いている。波は和風の伝統的なものであるが、七段を規則的に36度ずつずらして配置し、心地よいリズム感を作り出している。(金子賢治)

審査員賞 <ゆらぎ>  
乾漆造形によるふくよかな形のスイングする遊び心が楽しい。朱と黒の暈し塗りの縁造りと内側を磨き仕上げた切り替えが美しい。(三田村有純)

審査員賞 <静流>  
作者の技量の高さを感じるが、それだけでは飽き足らず、水流のような器を制作した。独創性と感性の良さを感じる。(藤田潤)

審査員賞 <練込そば猪口「涼水」・「涼風」>  
練込の技法でリボンのような模様が見込み底中央から螺旋状に放射し、それが外側胴部につながる底に収斂する。安曇野の湧水と爽やかな風の情景である。模様のシンプルでストレートなスタイルがその意図をよく表現している。(金子賢治)

審査員賞 <存在価値Existence Value(E.V)>  
小型の飯茶碗とでも言ったような形で、そば猪口としては異例の形だが使えないことはない。しかもアウトラインののびやかな線に作者の優れた感覚を思わせる。外側には2、3mmの間隔で鍍金が20本入れられ、さらにもう一つ鍍金が追加されそれが高台をなすというしたたかさを見せる。そのしたたかな優れた感覚はコンクリート製の台にもうかがえる。(金子賢治)



優秀賞

8.8 × 8.8 × 7.5 cm

月光 (ガラス/フュージング・サギング)

底に沈めた満月ひとつ。白いそばの花が浮びあがる風景を夢想して…。

丁子 恵美  
奈良県 1959年生まれ



優秀賞

7.5 × 7.5 × 7.0 cm

晃 (漆、楓、銀箔/変塗、梨地)

太陽の光と影をイメージして作成しました。

陳 明宗  
台湾新北市 1980年生まれ

特別賞

(右) 9.0 × 9.0 × 6.9 cm  
(左) 8.0 × 8.5 × 6.9 cm



虹彩霧滴「aurora」・「黎明」 〈陶/天目釉〉

(右)《黎明》伝統釉を用いて自然界の美しさを表現しました。  
(左)《aurora》現代の天目釉を目指し制作をしました。

古川 剛

京都府 1984年生まれ

審査員賞

(右) 9.5 × 9.5 × 6.5 cm  
(左) 9.4 × 9.4 × 6.3 cm



練込そば猪口「涼風」・「涼水」 〈(左)陶、(右)磁/練り込み、タタラ、ロクロ〉

(右)《涼水》安曇野に流れる清らかな湧き水の情景。  
(左)《涼風》安曇野に吹く爽やかな風の情景。

相澤 正樹

長野県 1961年生まれ

審査員賞

10.0 × 10.0 × 7.0 cm



ゆらぎ 〈漆、麻布/乾漆〉

手に持った時、置いた時のこち良さを意識して作成しました。

数永 真太郎

東京都 1990年生まれ

審査員賞

10.0 × 10.0 × 5.5 cm



存在価値 Existence Value (E.V) 〈陶、コンクリート/ロクロ〉

一番つらい時期に支えてくれた陶芸。今自分にできる最高の陶器。

鎌田 啓佑

神奈川県 1993年生まれ



審査員賞

8.0 × 8.0 × 7.0 cm

清流 〈ガラス/宙吹き〉

きれいな空気、水の流れる様子を想像して作りました。

林 良治

愛知県 1983年生まれ



審査員賞

8.1 × 8.1 × 6.5 cm

黒耀彩波文そば猪口 〈陶/ロクロ〉

波文をベースに質感・色彩のバランスに留意して制作しました。

佐藤 正徳

愛知県 1973年生まれ



9.0 × 9.0 × 6.1 cm

染付ふぐ文そば猪口 〈陶/染付〉

白い海を泳ぐ、ぷっくり太った可愛いふぐを呉須で表現しました。

朝倉 潔

千葉県 1965年生まれ



直径9.0 × 7.0 cm

水泡 〈磁/ロクロ〉

故郷・松本や安曇野の自然の中をゆるやかに流れる川を連想して制作しました。

石曾根 沙苗

長野県 1992年生まれ



風想 〈磁/ロクロ〉

夏のそよかぜを思わせるような涼やかな作品を作りました。

伊藤 真一  
長野県 1974年生まれ



青白磁緋彩そば猪口 〈磁/ロクロ〉

すっきりしていて涼しげなイメージで制作しました。

江口 功  
愛知県 1980年生まれ



静寂の中の温もり 〈陶/黒化粧、ロクロ〉

安曇野の深い緑と静けさをイメージして作成しました。高台を小さくして凛とした印象にしてみました。

皆藤 沙羅  
東京都 1993年生まれ



なみちよこ 〈磁/ロクロ、上絵〉

「なみなみ注ぎ入れる」をイメージして波模様の絵付をしました。

金沢 優佳  
京都府 1984年生まれ



直径11.5 × 7.0 cm

満月ふたつ 〈磁/上絵金銀彩〉

月暈をまとった満月をモチーフに制作しました。

上島 加奈子  
東京都 1980年生まれ



8.0 × 8.0 × 6.5 cm

織部練込「NARUMI」 〈陶/練り込み〉

織部の意匠を練込で表現しました。

川井 奈津子  
静岡県 1983年生まれ



9.0 × 9.0 × 6.5 cm

安曇野の春 〈陶/ロクロ〉

安曇野の春をイメージして作成しました。

木口 泰広  
長野県 1985年生まれ



8.0 × 8.3 × 6.0 cm

尾花 〈陶/ロクロ〉

秋の野に尾花がたなびく涼やかなひと時を表現しました。

北嶋 裕子  
長野県 1959年生まれ



9.0 × 9.0 × 8.5 cm

安曇野の1日 〈磁/ロクロ、練り込み〉

安曇野に出向きレンタサイクルを借り朝から夕方まで安曇野を堪能してまいりました。北アルプスを一望にした雄大な美を絵画的に表現しようとロクロで朝・夕の美しさを表現しました。

橋川 貴  
神奈川県 1951年生まれ



9.1 × 9.1 × 7.0 cm

sunrise・sunset 〈陶/練り込み〉

数種類の土でグラデーションをつけ朝日と夕日を表現しました。

木村 まゆみ  
長野県 1967年生まれ



9.5 × 9.5 × 6.5 cm

花 舞 〈磁/鑄込、化粧土掛け〉

花の舞い散る様子をイメージしました。

坂口 禮子  
長野県 1941年生まれ



8.0 × 8.0 × 6.5 cm

melty line 〈磁/ロクロ〉

そばの実とそばの花をモチーフに、磁土を立体的に絞り出すことで独特な質感を目指しました。

澤谷 由子  
石川県 1989年生まれ



9.0 × 9.0 × 7.5 cm

艶消し釉裏紅文そば猪口 〈磁／釉裏紅、象嵌〉

夕焼け空の断片を集めてつなげて。

篠田 明子  
長野県 1962年生まれ



直径8.3 × 7.1 cm

火たすき「夏の宵」 〈陶／火たすき〉

作品にワラを巻いて焼く「火たすき」の技法です。独自の焼成法により春夏向きに仕上げました。

篠田 弘明  
長野県



直径9.2 × 7.0 cm

釉彩 〈磁／釉彩〉

安曇野の四季の空をイメージして作成しました。

柴田 博  
石川県 1950年生まれ



(右) 8.5 × 8.5 × 6.8 cm  
(左) 8.2 × 8.2 × 5.8 cm

磁器土鍋ぎ手透しそば猪口揃 〈磁／鍋ぎ手透し〉

信州の山並みを器に表現。

清水 晶代  
長野県 1962年生まれ



9.0 × 9.0 × 6.0 cm

透光磁練上そば猪口「花宴」 〈磁／練り上げ〉

ほころんだ梅に待ちわびる安曇野の春を重ねてみました。

杉山 久子  
静岡県 1950年生まれ



7.5 × 7.5 × 6.0 cm

daily us-soba 〈陶／タタラ〉

広大な松本盆地と壮大な北アルプスの山々を器として表現した。

須藤 圭太  
千葉県 1982年生まれ



9.0 × 9.0 × 6.7 cm

宙へ 〈陶／ロクロ〉

夜空にまたたく星をイメージして作成しました。

高木 彩子  
東京都 1950年生まれ



8.5 × 8.5 × 8.5 cm

月夜の宴 〈陶／イッチン〉

満月の夜、うさぎ達が宴会しているイメージです。勿論ソバで…。

武内 雅之  
茨城県 1946年生まれ



9.6 × 9.3 × 8.0 cm

白磁輪花猪口 〈陶/ロクロ〉

中国陶器の「綺麗」に日本独自の「わび・さび」の精神を取り入れてみました。

竹下 努

岐阜県 1986年生まれ



8.0 × 8.0 × 7.0 cm

ちょこちょこ 〈陶/手びねり、染付、掻き落し〉

ちょこちょこ跳ねまわる唐獅子と咲きみだれる牡丹。おめでたい取り合わせをゆるやかに表現。

田中 野穂

京都府 1987年生まれ



7.5 × 7.5 × 6.2 cm

そば猪口〜ゆらぎ〜 〈磁/蛸手、彫り〉

ゆらゆらと光が差し込む。

樽田 裕史

愛知県 1987年生まれ



8.5 × 8.5 × 6.8 cm

梅雨／紅葉 〈磁/鋳込み〉

彩色豊かな長野の自然を背景に、季節をイメージさせる色使いにこだわりました。

鶴岡 悠子

長野県 1991年生まれ



永遠の白 〈陶〉

白は世界を貫く赤は命のつながりをイメージしました。

中野 亘  
滋賀県 1953年生まれ



そばの葉 〈陶／練り込み、貼り付け〉

花が咲き、実が稔る前のそば畑では葉や茎が主役に見えます。

中山 弓枝  
長野県 1980年生まれ



プリンのそばちょこ 〈陶／ロクロ〉

収納時にも愛らしいそばちょこです。

長屋 有  
岐阜県 1986年生まれ



手の中の花 〈陶／ロクロ、陽刻〉

安曇野の里に咲く、名もない花をイメージして作成しました。

野辺 真理子  
神奈川県 1965年生まれ



サーカス 〈陶/ロクロ〉  
サーカスをモチーフに作成しました。

橋本 大輔  
大阪府 1969年生まれ



斑点金彩釉そば猪口 〈陶/ロクロ〉  
練込でも釉薬だけでも表現できない器です。

畠山 雄介  
東京都 1992年生まれ



はるなつ 〈陶/たたらづくり〉  
花をモチーフに春と夏を描きました。

ひが 直美  
愛知県 1968年生まれ



夜風 〈陶/ロクロ、白化粧、黒化粧〉  
風をイメージして制作しました。

樋口 健太  
長野県 1980年生まれ



8.0 × 8.0 × 6.5 cm

ひび割れそば猪口 〈磁/ロクロ〉

ひび割れを装飾として器に入れています。

人見 和樹  
岐阜県 1991年生まれ



(右) 10.5 × 10.5 × 7.5 cm  
(左) 10.0 × 10.0 × 8.0 cm

ゆきあかり 〈磁/ロクロ、練り込み〉

雪どけに差し込む明かりを表現したいと思い作りました。

藤岡 光一  
兵庫県 1976年生まれ



直径9.0 × 7.0 cm

Overhead Kick! 〈陶/染付、上絵〉

今年はサッカーワールドカップの年です。日本伝統競技である蹴鞠で表現しました。

前田 亜美  
京都府 1979年生まれ



9.8 × 9.8 × 7.2 cm

growth 〈磁/線彫り技法〉

一面にそばの花が咲いているイメージを表現しました。

間島 尚美  
京都府 1986年生まれ



直径8.5×7.0 cm

surface 〈陶/ロクロ〉

安曇野を流れる清流の水面をイメージして制作しました。

増原 嘉央理  
北海道 1985年生まれ



直径7.0×8.0 cm

凍羽華 〈磁/ロクロ〉

凍てついた蕾が開く、涼しげで、華やかな様子を表現した。

松村 淳  
岐阜県 1986年生まれ



8.0×8.0×7.5 cm

Rond 〈磁/下絵付〉

赤そば畑をイメージして作成しました。

森谷 かほ理  
東京都 1987年生まれ



9.0×9.0×6.5 cm

雲のそば猪口 〈陶/練上〉

手になじみやすい形で雲をイメージして作りました。

森山 恵  
滋賀県 1976年生まれ



7.8 × 7.8 × 11.8 cm

無題 〈陶/ロクロ〉

故郷の路傍の石をイメージして…。

吉原 隆文  
岐阜県 1976年生まれ



直径8.0 × 6.0 cm

草花紋炭化そば猪口 〈陶/ロクロ〉

安曇野の力強い大地と豊かな自然をイメージして作成しました。

渡辺 信史  
神奈川県 1974年生まれ



8.5 × 8.5 × 7.0 cm

「雨・風・光」I・II 〈ガラス/宙吹き、グラール〉

田園の自然をイメージして作成しました。

天野 澄子  
北海道 1955年生まれ



7.5 × 7.5 × 8.0 cm

金燻銀切子猪口（菊繫紋） 〈ガラス/宙吹き、切子〉

いつもより少し優雅な気分を楽しんでいただきたいという思いを形にしました。

石田 慎  
東京都 1986年生まれ



8.3 × 8.3 × 7.8 cm

木陰 〈ガラス/宙吹き、オーバーレイ〉

光が木々の間を通り抜けてできる陰をイメージしました。

伊藤 周作  
神奈川県 1986年生まれ



8.5 × 9.0 × 8.5 cm

吹きガラス 夏まつり 〈ガラス/吹きガラス〉

夏休み夏まつり。

岡本 亜津子  
大阪府 1959年生まれ



7.0 × 7.0 × 7.0 cm

ふりそそぐ 〈ガラス/宙吹き〉

素材と対話し寄り添いながら制作しています。

小川 明花里  
長野県 1985年生まれ



8.0 × 8.0 × 7.0 cm

SOBA-CUP 〈ガラス/吹きガラス、サンドブラスト〉

そばが持つ「粋」なイメージを何とか表現したいと考えました。

児玉 みのり  
京都府 1967年生まれ



8.0 × 8.0 × 6.0 cm

waterworks 〈ガラス／吹きガラス〉

「水」を意識して作りました。

小林 博起  
東京都 1966年生まれ



8.5 × 8.5 × 8.0 cm

はざま 〈ガラス／吹きガラス〉

透明と不透明のガラスを組み合わせることによってできる空間を意識して制作しました。

小宮 崇  
東京都 1985年生まれ



8.0 × 8.0 × 8.2 cm

氷雪 〈ガラス／吹きガラス、研磨〉

作品のイメージ  
・形—雪を削り出して作ったそば猪口をイメージ。  
・色—長野に住んでいた時に感じた、きれいな水と夕日をイメージ。

Gori  
神奈川県 1983年生まれ



(右) 10.0 × 10.0 × 6.8 cm  
(左) 10.0 × 10.0 × 6.0 cm

ふんわり 〈ガラス／吹きガラス、サンドブラスト〉

そばの花の可憐さを想い、柔らかさと穏やかさを表現しました。

鈴木 伊美  
東京都 1972年生まれ



直径8.8 × 8.0 cm

純 〈ガラス/吹きガラス〉

空を見上げた時に感じた澄みわたった色合いで制作しました。

瀧本 ハルナ  
神奈川県 1991年生まれ



8.5 × 8.5 × 8.0 cm

CHOCO 〈ガラス/吹きガラス〉

“ちょこ”という語感から、チョコレートをイメージしたそば猪口を作ってみたくなった。ホワイトチョコとビターチョコが混じり合う、マーブルな質感をイメージして。

築館 礼野  
長野県 1983年生まれ



(右) 9.0 × 9.0 × 7.2 cm  
(左) 9.0 × 9.0 × 7.5 cm

朝雨・夕立ち 〈ガラス/宙吹き〉

夏の朝、夕に降る雨をイメージし、色のグラデーションを彫り込みました。

トガシ ヨウコ  
神奈川県 1973年生まれ



9.0 × 9.0 × 6.0 cm

ちょこどん 〈ガラス/吹きガラス〉

そば猪口と小さな丼を兼ねた器を作りました。ちょっと欲張りな猪口です。

中野 雄次  
石川県 1976年生まれ



8.0 × 8.0 × 7.5 cm

SNOW 〈ガラス/吹きガラス〉

雪で作った器で冷たいおそばを食べる気分！

難波 立子  
 福島県 1966年生まれ



9.0 × 9.0 × 6.5 cm

夏の日 〈ガラス/パールド・ヴェール〉

夏の青空と白い雲に映える作品を作りたいと思いました。

福榮 徳子  
 福岡県



8.0 × 8.0 × 8.0 cm

清涼 〈ガラス/吹きガラス〉

暑い夏おいしいおそばを涼しくいただきたく作成しました。

藤井 哲信  
 徳島県 1956年生まれ



9.0 × 9.0 × 9.0 cm

クローバーとシロツメクサ 〈ガラス/宙吹き〉

四つ葉を見つけた時のしあわせな気持ちをガラスに閉じこめ、レンズ効果で広がって見えるよう作成しました。

三留 舞  
 神奈川県 1986年生まれ



(右) 8.0 × 8.0 × 5.8 cm  
(左) 7.7 × 7.7 × 5.5 cm

めおと清流そば猪口 〈ガラス/吹きガラス、ロールアップ〉

澄んだ水の流れと、音、空気感を表現しました。

山川 厚子  
大阪府



直径8.5 × 7.4 cm

ペンギン猪口 〈ガラス/吹きガラス(モールド・ケインワーク)〉

強力なブリザードによってガラスになってしまったペンギン。という勝手な空想から形を導き出しました。

山本 めい子  
兵庫県 1959年生まれ



6.2 × 6.2 × 6.7 cm

SobaChoko 〈ガラス/サンドブラスト〉

伝統的なタコ唐草にハートの要素を加えモダンな印象にしました。

山本 弥生  
東京都 1964年生まれ



8.0 × 8.0 × 8.0 cm

三つ足そば猪口 〈ガラス/宙吹き〉

ちょこちょこと動き出しそうな三つ足のそば猪口を制作しました。

湯浅 明子  
埼玉県 1988年生まれ



8.5 × 8.5 × 8.0 cm

blue 〈ガラス／宙吹き、カット、エナメル絵付け〉

ガラスにたまる光と色を大事に作りました。

吉積 彩乃  
富山県 1991年生まれ



(右) 8.8 × 8.8 × 5.5 cm  
(左) 8.5 × 8.5 × 5.8 cm

塗立夫婦猪口 〈漆、樺／塗立〉

樺材を轆轤で挽いたものを素地にし、布着せ・下地を行い仕上げは黒漆・淡口朱の塗立にしました。

浅賀 貴宏  
福井県 1983年生まれ



8.5 × 8.5 × 7.0 cm

乾漆朱塗そば猪口「しずく」 〈漆、金／乾漆、蒔絵、沈金〉

素材を生かして、自然の中の生命力を表現しました。

新井 寛生  
埼玉県 1986年生まれ



8.5 × 8.5 × 7.5 cm

田舎のソバ猪口 〈漆、青貝、麻紐、乾漆粉、アルミ粉、金粉〉

安曇野のワサビ畑から見た北アルプスの山々をイメージして。

伊藤 敦欣  
長野県 1947年生まれ



7.5 × 7.5 × 5.8 cm

### 乾漆そば猪口「TUTUMU」 〈漆、麻布、和紙／乾漆〉

飾らない素朴な魅力を持つおそばに調和する器を目指しました。

榎 恵美

茨城県 1965年生まれ



直径8.7 × 5.5 cm

### 歪 〈漆、樺／挽物〉

木のもつ歪をもとに作品を制作した。

小田 伊織

東京都 1984年生まれ



8.3 × 8.3 × 7.2 cm

### 月虹 〈漆、樺、アワビ貝／螺鈿、蒔絵、拭き漆〉

夜に架かる虹を螺鈿で表現しました。

川村 友美

石川県 1987年生まれ



8.0 × 6.0 × 6.0 cm

### 東雲 〈漆／蒔絵、螺鈿〉

明け方の雲、星空が少しずつ変化するイメージを表してみました。

竹森 公男

長野県 1949年生まれ



直径9.0 × 5.3 cm

縄文そば猪口 〈漆、麻紐、地粉、米糊／乾漆〉

安曇野に太古より豊富な湧水を表現しました。

田中 勝征

長野県 1945年生まれ



(右) 7.8 × 8.7 × 6.0 cm  
(左) 8.3 × 8.3 × 6.0 cm

蕎麦の里・早春賦 〈漆／乾漆、螺鈿、色漆ほかし塗、呂色仕上げ〉

(右)《早春賦》田圃に広がる自然と緑の美しさを色漆で、涼やかな風を貝で表現してみました。  
(左)《蕎麦の里》初夏と秋に白色、淡紅色の花を開く蕎麦の花。淡紅色の蕎麦の花の可憐さを、蕎麦猪口にしてみました。

谷口 元美

京都府 1960年生まれ



8.3 × 8.3 × 7.7 cm

日没 〈漆、栃／ほかし塗〉

日没間際の地平線をイメージして制作しました。

外川 優香

東京都 1992年生まれ



8.5 × 8.5 × 9.5 cm

空へ 〈漆、櫨、麻布／ほかし塗り〉

従来のそば猪口の形を脱し、そばの実が天高く実る様をイメージした。

中山 強

石川県 1960年生まれ



空文様猪口 〈漆、木、錫粉/ロクロ、髹漆、粉蒔き〉

漆、空、錫の素材や表情を感じながら楽しむ器です。

隼瀬 大輔  
滋賀県 1976年生まれ



そば猪口「籬」<sup>たが</sup> 〈漆、竹/拭き漆〉

そばの文化にかかせない竹を改めて表現。

堀 正敏  
新潟県 1949年生まれ



陶胎漆器・根来塗夫婦そば猪口 〈漆、陶/陶胎漆器〉

伝統のある暖かみのあるモダンさと使いやすさをマッチするよう作成しました。

前田 怜美  
京都府 1977年生まれ



恵 〈漆、金箔、栃/変わり塗り、宮島轆轤〉

安曇野の豊かな地で生きる蕎麦の実の姿をうつわに表現しました。

舛岡 真伊  
広島県 1985年生まれ



8.5 × 8.5 × 7.5 cm

沈金そば猪口「春秋」 〈漆、樺/沈金〉

水尻 清甫  
石川県 1954年生まれ



8.0 × 8.0 × 9.0 cm

六角花形そば猪口 〈漆/髹漆、金銀梨子他、螺鈿、変塗〉

革一枚からできた素地に漆工法を使用。つぼみから咲き始めた花が食卓を彩ってくれます。

廖 家慶  
台湾台中市 1975年生まれ



7.8 × 7.2 × 9.0 cm

八角五変化そば猪口 〈ヒバ/榎目、板目仕様/丸面圧着工法〉

安曇野にはばたく白鳥の羽を薬味器と組合して表現しました。

小口 富雄  
長野県 1948年生まれ



7.0 × 7.0 × 7.4 cm

夫婦糸滝 〈米榭/木工ロクロ〉

1cmに20本入った木目を滝の水に見立て安曇野の豊かな清水をイメージして作成しました。

高原 正勝  
長野県 1950年生まれ



8.0 × 8.0 × 7.2 cm

無用之用 〈桜／篆刻〉

人皆知有之用而莫知無用之用也という荘子の言葉を篆刻しました。

望月 信幸  
長野県 1973年生まれ



直径8.0 × 7.0 cm

安曇野の朝靄 <sup>あさのや</sup> 〈銅／七宝〉

安曇野に朝靄が立ちこめる様子をイメージして作成させて頂きました。

飯島 幸子  
長野県 1947年生まれ



直径8.5 × 5.0 cm

淡雪 〈銅／鍍金、七宝、メッキ〉

雪景色にそばの花と空を合わせてイメージしてみました。

藤森 和孝  
長野県 1963年生まれ



10.0 × 10.0 × 8.0 cm

格子猪口 〈銅／ウェルダーク〉

水、酒等を美味しくさせると言われている素材「錫」を使ってアート性の強い美しい、一度は使ってみたくなるようなそば猪口を目指して作成しました。

成瀬 好徳  
千葉県 1976年生まれ

木  
七  
宝  
金  
工

# Soba Choko Art

## 第3回 そば猪口アート公募展

2014年10月18日(土)～11月16日(日)

休館日 10月20日(月)、27日(月)、11月4日(火)、10日(月)

開館時間 9:00～17:00

会場：安曇野高橋節郎記念美術館

観覧料：無料(高橋節郎作品の展示室は有料)

主催：そば猪口アート展実行委員会、安曇野高橋節郎記念美術館

(安曇野市、東京藝術大学、安曇野高橋節郎記念美術館友の会、現代工芸美術家協会長野会、安曇野スタイルネットワーク)

協力：「新そばと食の感謝祭」実行委員会

審査会：2014年8月4日(月)・5日(火)

審査員：金子賢治・高橋貞夫・藤田潤・宮下克彦・三田村有純

募集期間：2014年7月1日(火)～18日(金)

応募点数：278点(応募者数222名)

巡回展：白鷹町文化交流センター「あゆーむ」

山形県西置賜郡白鷹町大字鮎貝7331

12月13日(土)～平成27年1月18日(日)

### 入選者(50音順)

相澤正樹	浅賀貴宏	朝倉 潔	天野 澄子	新井 寛生	飯島 幸子
石曾根沙苗	石田 慎	伊藤敦欣	伊藤周作	伊藤真一	江口 功
榎 惠美	岡本亜津子	小川明花里	小口啓雄	小田伊織	皆藤沙羅
数永真太郎	片瀬有美子	金沢優佳	鎌田啓佑	上島加奈子	川井奈津子
川村友美	木口泰広	金北 嶋裕	橋川 貴子	木村まゆみ	児玉みのり
小林博起	小宮 崇	G o r i	坂口 禮子	桜井 謙治	佐藤正徳子
澤谷由子	篠田明子	篠田弘明	柴田 博	清水晶代	杉山久雅
鈴木伊美	須藤圭太	高木彩子	高原正勝	瀧本ハルナ	武内裕史
竹下 努	竹森公男	田中勝征	田中野穂	谷口元美	樽田裕香
丁子 恵美	陳 明宗	築館礼野	鶴岡悠子	トガシヨウコ	外川優好
中野雄次	中野 亘	中山 強	中山弓枝	長屋 有	成瀬好徳
難波立子	野辺真理子	橋本大輔	山雄介	林 良治	瀬岡光一
ひが直美	樋口健太	樋口正敏	福榮徳子	藤井哲信	關島尚美
藤森和孝	古川 剛	堀 正敏	前田亜美	前田怜美	望月信幸
外岡真伊	増原嘉央理	松村 淳	水尻清雨	三留 舞	瀧 浅明子
森合かほ理	森山 恵	山川厚子	山本めい子	山本 弥生	
吉積彩乃	吉原隆文	廖 家慶	渡辺 史		



## 安曇野高橋節郎記念美術館

〒399-8302 長野県安曇野市穂高北穂高408-1 電話 0263-81-3030 FAX 0263-82-0551

URL [http://www.city.azumino.nagano.jp/setsuro\\_muse/](http://www.city.azumino.nagano.jp/setsuro_muse/)

発行/平成26年10月18日 制作/株電算印刷 撮影/山田 毅

## 第3回 そば猪口アート公募展

「日本そば」は古来より日本人の食卓を彩り、今なお、私たちの日常的な食材として欠かすことができない存在です。日本全国に名物とされる「そば」は多々ありますが、信州安曇野の「そば」は全国的にも名高く、安曇野観光の目的として多くの人に親しまれています。

わが国では「そば」を食べるための容器は、多彩に発展しています。とりわけ「そば猪口」は、そばを食べるに欠かせない日常的な雑器でありながら、美しい細工が施され、味覚とともに視覚を楽しませるものになります。

このたびの公募展では、「そば」を食するに欠かせない什器である「そば猪口」に着目し、広く一般から自作の作品を募集しました。222名、278点の応募作品の中から、厳選した100点の「そば猪口アート」をお楽しみください。

## 凡例

作品サイズ  
縦×横×高さ  
直径(口径)×高さ

※作品のサイズの表記は、縦×横×高さの順に表記しています。それ以外の作品は直径(口径)×高さの順で表記しています。  
※サイズの記述については、作家の表示指定に準じています。  
※県名は、現住所を示しています。  
※コメントは、入選者の方に寄せていただいたものです。

作品タイトル (材質/技法)

入選者コメント

氏名

現住所 生まれ年